

平成 25 年度 緑区生活支援センター事業報告書

今年度 1 月よりセンター開所から 9 年目を迎え、運営の安定を感じる事が出来ています。「相談支援事業」「地域活動支援センター事業」「地域移行・地域定着支援事業」「自立生活アシスタント事業」「生活支援事業」の 5 事業をそれぞれ充実させる事が出来ました。

新規事業である「指定特定・一般相談支援事業」においては、地域の各事業所や区福祉保健センター等の協力と理解を推進ながら、少しずつではありますが着実に事業実施を開始することが出来ました。また、生活支援事業の「宿泊支援事業」では、長期入院中の対象者に向けて定期的な GH 宿泊体験を実施する中で、医療機関や患者からの高いニーズを実感しました。

今後もこれらの事業をさらに円滑に遂行する為、地域や各事業所との連携の強化に努め、当事者のみならず、家族や地域住民、地域の支援者等からの支持を得られるセンター機能を有していく様努めていきます。

【利用実績】

別添資料 1 参照

【事業実施内容】

1. 地域活動支援センター事業及び相談支援事業

(1) 相談支援

利用者の相談においては、ご本人のニーズに基づき「真の訴え」は何なのかを検討し、必要な支援及び社会資源へ繋げていくことを十分に意識し、センターのみで支援を完結する事ではなく、地域や関係機関のネットワークを駆使した中で支援を実施していくことの重要性を、職員全員で常に共有する様努めました。

- ①基本相談…センター利用者全般を対象とする相談支援であり、その先の密な個別支援に繋がる大切な機能として、丁寧に実施。
- ②指定特定相談支援事業…「計画相談」として新規契約で 2 件実施。サービス等利用計画作成実施し、ヘルパー導入や地域移行支援のサービスを導入
- ③指定一般相談支援事業…「地域相談（地域移行支援、地域定着支援）」として新規契約 2 件実施。計画相談と絡め地域移行支援のサービスを導入。
- ④その他の相談支援
「出張個別相談会」「嘱託医相談」「心理士相談会」等を実施。

(2) 情報提供

法制度の情報や利用者に必要な種々の社会資源の情報（GH 募集情報、就労関係、企画イベント）等、適宜様々な方法（センター便り、ホームページ、館内掲示、ブックラック等）を用いて利用者やその家族、関係機関等に提供しました。

(3) 場の提供・地域交流

当事者グループの定例会、当事者サークル活動等の場の提供を実施しました。また合築施設の特性を活かし 3 障害合同のお祭り（秋のコスモスフェスタ）の実施や施設開放を通して、他障害関係機関や地域の色々な施設等との共催により地域市民との交流を図りました。

(4) 自主事業

※別添資料 2 参照

区内の関係機関とのより密接な連携に繋がる事や、「地域全体で緑区の方々の精神障害の方々を支える事」を目的として、センターが中心となり、納涼会やクリスマス会等季節行事において区内精神関連施設全部が一同に介し、協働して行事を実施しました（開所より継続実施）。

また、利用者同士の交流や仲間づくりの場、趣味の幅を広げる事など余暇支援を目的として、様々な行事、プログラムを実施しました。

「たこ焼き会」「ビーズ作り」「緑菜園」などのプログラムは、誰でも初めてでも参加し易く、地域移行地域定着支援事業とも連携し入院中の患者さんも積極的に参加されました。

(5) 訪問・同行

センター利用者への定期的な訪問に加え、地域移行・地域定着支援事業と自立生活アシスタント事業との連携により、入院中から地域移行後の地域生活安定までの一連の流れの中で有機的に訪問・同行を実施しました。

また、緊急時や不穏時、家から一歩も出る事が出来なくなった状況等々、日々の関わりの中から情報を察知し、必要に応じたタイムリーな訪問等の積極的な支援を実施しました。

(6) ボランティア育成

緑区社協、区福祉保健センターとの共催で、他関係機関の協力も仰ぎ「こころの病を抱えた人がわかる講座」を地域ケアプラザにて企画、実施（毎年継続）し、ボランティア活動推進・育成と地域への普及啓発活動に力を入れました。

(7) 家族支援

7月に「浜家連ブロック別講演会」として今年緑区で開催された「家族会フォーラム」を、共催団体として実施しました。（参加約 250 名）

また区福祉保健センターとの共催で、発症間もない家族を対象にした「家族教室」を実施し、家族の孤立防止と相談場所等の情報提供に寄与しました。

また、「家族会定例会」への参加や、「家族による家族学習会」実施に向けての協力を提案し、浜家連とも連携しつつ緑区家族会へのバックアップを実施しました。

(8) その他

「利用者アンケート」や「メンバーミーティング」、「意見箱」及び利用者から寄せられた直接的な意見や質問等について職員ミーティング、職員全体会議において協議し、早急に対応すると共に、掲示等により利用者に向けて回答内容等を周知しました。

2. 地域移行・地域定着支援事業

※統計については別添資料 1 参照

退院することのみならず地域への定着を十分意識した支援を実施し、退院後も入院を繰り返さない様、その地域の支援センターや関係機関及び区福祉保健センターとの連携を図りながら、安心した地域生活を目的としたきめの細かい支援を実施しました。

また当センターで実施の「宿泊支援事業」の活用は、退院後の地域生活を具体的にイメージする為の体験として、長い入院生活では学ぶことの出来ない貴重な経験の場面となりました。

さらに、個別支援と並んで事業の重要な側面である「医療機関への普及啓発活動」についても、北部ブロック（緑、港北、鶴見、神奈川、中区）の各センターと協働し打合せを重ねた上、市内の医療機関へ出向き事業の理解や社会資源の紹介等実施しました。

あさひの丘病院入院患者に対する「キャラバン隊かめ（当事者活動グループ）」との協働活動については、旭区生活支援センター、あさひの丘病院看護・相談室と協働し、毎月実施しました。また今年度は、緑区支援センターの当事者活動の活性化に繋げる目的で、「みどりガメ」と称して、かめのメンバーと緑区の利用者との交流会（茶話会）を開催しました。

3. 自立生活アシスタント事業

※統計については別添資料1参照

本事業は本年度で3年目となり、単身で地域生活を送っている精神障害者が安心して、安全に暮らせるよう、対象者の課題やニーズに個別対応したきめの細かい支援を実施しました。

また、他のセンター事業や地域移行・地域定着支援事業とも連携を図り、支援センターの中で有機的な事業展開となるような位置づけとして事業を実施することを意識しました。

また、区福祉保健センターと共に「緑区自立生活アシスタント連絡会」を実施し、本事業を円滑に実施する為の情報共有や事例検討等を行いました。

4. 生活支援事業

社会資源につながらず、支援センターにも来所することが困難な方々への支援及び地域との交流の機会を提供することを目的に、支援センター内ではなく、地域に出向く形で参加しやすいプログラムを定期的にも実施しました。

①余暇支援（ビーズクラブ）

中山地区センターを会場に、地域のボランティアを講師として、誰にでも制作できる簡単なビーズ作りを実施。地域の方々にも広報し、参加を促し交流を図りました。

（10回実施、112名参加）

②余暇支援（革細工倶楽部）

今年度初のプログラムとして、中山地区センターを会場に、初めての方でも参加し易い簡単な革細工の製品作りを実施しました。（2回実施、17名参加）

③宿泊支援事業

今年度地域移行地域定着支援と連動し、入院中の方を対象として7回実施。

他法人と紫雲会とで協定を締結し、他法人のグループホームの空き部屋を利用し宿泊体験を支援しました。医療機関や長期入院中の患者さんからの高いニーズがあることや、事業を通して長期入院の方々の地域生活体験をする機会の不足を実感しました。

【普及・啓発活動】

精神の障害に対する偏見や差別はまだ根強く、その為地域での生活に支障があると感じている当事者・ご家族は多いのが現状です。当センターの責務として、地域に対する「普及・啓発活動」は特に力を入れて実施する必要があると考えています。

○講習会・相談会の開催

①「家族教室」

対象：発症後間もなく（5年未満）まだ家族会に所属していない精神障害者の家族

内容：講座形式による情報提供と、家族同士の交流を目的としたグループワーク

統合失調症について、制度、リハビリ、家族対応、社会資源、当事者発表

②「こころの病を知る講座」

地域の支援者（ケアマネージャー、民生委員、他障害施設職員等）、社会資源に繋がっていない家族等に対する普及・啓発活動を地域のケアプラザと連携し企画

内容：精神疾患について、関わり方、制度、社会資源、当事者発表、グループワーク等

③「精神科医療機関における講座、当事者活動との協働」

地域移行地域定着支援事業と絡めて、医療機関や入院中の患者への普及啓発活動実施

※詳細は別添資料1参照

【その他】

1. 職員資質の向上・人材育成

より質の高い支援の提供を目的に、職員の育成に関して種々の対策を講じました。

外部研修への参加、支援センター内部での職員学習会等を実施し、職員の資質と知識の向上に努めました。とりわけ「個人情報保護、障がい者権利擁護」の研修については、職員全体会議にて全職員に研修を実施しました。

2. 衛生管理

年2回、清掃業者による館全体の清掃、及び月3回近隣地域作業所による清掃（委託）、毎月1回調理器具の消毒、漂白やシーツ類の洗濯を行い、衛生管理に努めました。特に調理室の衛生や調理に使用する布巾、タオル等については清潔を保つよう徹底しました。

また、ノロウイルス対策として、受付入口カウンターに手指の消毒液を設置、毎夕食サービス終了後に調理室・食堂のテーブル等の消毒、また汚物処理方法のマニュアルを職員で共有するなどの予防に努めました。

3. 安全管理・災害対策

安全管理に関しては、利用者個々の日々の様子を意識し、不穏時の対策等について日頃の職員ミーティングや職員全体会議に於いて検討、対応策を講じました。

災害対策は、緑区役所との「特別避難場所に協力する協定」に基づき、万一の災害時対策として、災害備品（発電機、サーチライト等の照明機器、ラジオ、懐中電灯等）を整備し、避難所としての整備を固めました。

また、緑区社協役員会にも参加し、「緑区内災害緊急時連絡用回覧板」や「回覧ルート作成」等協議を実施し、万一に備えて具体的な検討をすると共に、地域や近隣施設との連携を強化しました。

1. 平成 25 年度 緑区生活支援センター 年間運営状況

開所日数		353 日	
登録者数	25 年度登録	78 名	
	全登録者数	1006 名	
利用者数	本人	9490 名	26.9 名/日
	家族	145 名	0.4 名/日
	ボランティア・関係機関	209 名	0.6 名/日
相談支援	電話相談	14536 件	41 件/日
	面接相談	1108 件	3.1 件/日
	訪問・同行	125 件	0.4 件/日
	非構造面接	1444 件	4.1 件/日
	嘱託医相談 (全 12 回)	17 件	1.4 件/回
	心理士相談 (全 45 回)	76 件	1.7 件/回
各種サービス	夕食サービス	6362 名	18 名/日
	入浴サービス	407 名	3.4 名/月
	洗濯サービス	224 名	18.7 名/月
	インターネットサービス	377 名	1.1 名/日

2. 地域移行・地域定着支援事業 実績

25 年度支援者数		12 名 (入院者 9 名、退院後フォロー 3 名) 名		
退院者数	アパート設定・自宅	0 名	支援継続	11 名
	グループホーム	1 名	支援中止	0 名
	生活訓練施設	0 名	支援終了	1 名
	生活保護施設	0 名		
普及啓発活動	病院 (患者、従事者)	15 回	関係機関・地域	1 回

※普及・啓発活動：日吉病院 (6 月、9 月、11 月)

あさひの丘病院当事者協働活動 (毎月 1 回)

緑区生活支援センター運営連絡会にて地域に向けて事業説明実施

※当事者活動の普及啓発活動：「みどりガメ」(3 月、緑区支援センターにて)

3. 自立生活アシスタント事業 年間実績

25 年度支援者数	登録者	12 名	相談中	7 名
支援内容	面接	55 回	心理情緒	993 回
	訪問	151 回	医療健康	564 回
	同行	62 回	就労	90 回
			衣食住	514 回
			対人	383 回

平成 25 年度 緑区生活支援センター自主事業報告

【主な定例プログラム】

別添資料 2

回数	プログラム名	内容	場所	参加人数
11 回	昼食会	昼食を囲んでの会食	食堂娯楽室	195
23 回	スポーツ根性クラブ	ショートテニス・ソフトバレーボール	緑スポーツセンター	240
9 回	緑菜園	季節の野菜の植え付けや収穫	市民菜園	55
11 回	作って食べよう	調理実習	食堂娯楽室	75
2 回	卓球大会	卓球大会	食堂娯楽室	20
1 回	日帰り散歩クラブ	景色を見ながら皆で歩く	四季の森公園	9
8 回	茶話会、メンバーミーティング	メンバー同士の交流会、話し合い	食堂娯楽室	52
6 回	女子会	女性利用者の交流会&茶話会	食堂娯楽室	31
10 回	たこ焼会	たこ焼きを焼きながら交流	食堂娯楽室	100
12 回	医師相談会	精神科医師による相談会	相談室	14
45 回	心理士相談会	心理士による相談会	相談室	76

【季節の行事】

月	プログラム名	内容	場所	参加人数
6 月	春のバスハイク	観光（区福合同）	川越、鉄道博物館	28
7 月	七夕飾り	七夕の飾り付け	支援センター館内	16
8 月	カキ氷会（全 3 回）	カキ氷を作って食べる	食堂娯楽室	18
8 月	緑区合同納涼会	流し素麺・バーベキュー	食堂娯楽室	51
10 月	ハロウィンキャンドルナイト	夜のキャンドルを楽しむ	食堂娯楽室	21
11 月	秋のバスハイク	バーベキュー（区福合同）	なみのこ村	22
12 月	緑区合同クリスマス会	クリスマス会	支援センター食堂娯楽室	75
1 月	初詣&かるた会	杉山神社へ初詣、かるた大会	神社、支援センター娯楽室	24・15
1 月	おしるこ会	おしるこ作り	支援センター食堂	13

【地域交流】

回数	プログラム名	内容	場所	参加人数
1 回	みどりコスモスフェスタ	3 障害合同の地域祭り&施設開放	支援センター地活全館	約 300
2 回	あおぞら合同防災訓練	避難訓練・消火器訓練	センター・地活全館	10
13 回	事業所合同ソフトボール	ピネル友の会合同の練習&試合	白山ハイテクパーク	88
1 回	フレンドシップ杯	事業所合同ソフトボール大会	金沢産業振興センター	5

【地域支援事業・地域普及啓発事業・その他】

回数	プログラム名	内容	場所	参加人数
10 回	手作りビーズクラブ	ボランティア講師によるビーズ作り	中山地区センター	112
2 回	革細工倶楽部	革細工作り	中山地区センター	17
3 回	出張個別相談会	地域の方に向けての相談会	東本郷ケアプラザ	3
2 回	家族教室（初発の家族対象）	情報提供・グループワーク	ハーモニーみどり	19
1 回	こころの病を知る講座	疾患、制度資源、当事者発表	中山地域ケアプラザ	20
2 回	稲穂の会茶話会	ボランティアグループと当事者交流会	ハーモニーみどり	7
2 回	みどりガメ	ピア活動グループと当事者交流会	支援センター食堂娯楽室	15

平成25年度 緑区生活支援センター指定管理料収支決算書(総括)

自平成25年4月1日 至平成26年3月31日

(単位 円)

科目		予算額	決算額	差 額	備 考
I 収入の部					
	1 指定管理料 収入	62,300,000	62,300,000	0	
A	2 利用料収入(給付費)			0	
収入合計		62,300,000	62,300,000	0	
II 支出の部					
戻入 精算 B	1 人件費	53,197,000	52,903,981	293,019	
	所長	6,013,000	6,101,670	△ 88,670	
	常勤職員	21,718,000	21,795,706	△ 77,706	
	非常勤職員	13,070,000	12,843,158	226,842	
	アルバイト	2,090,000	2,080,360	9,640	
	調理アルバイト	2,223,000	2,101,050	121,950	
	嘱託医賃金	726,000	695,840	30,160	
	法定福利費	6,412,000	6,379,729	32,271	法定福利費・労働保険料
	退職金給与引当金	100,000	153,008	△ 53,008	
	福利厚生費	735,000	674,160	60,840	共済掛金
	労務厚生費	110,000	79,300	30,700	職員健康診断
	2 施設管理費	4,011,000	4,238,506	△ 227,506	
	光熱水費	1,956,000	2,255,854	△ 299,854	
	庁舎管理費	1,920,000	1,855,052	64,948	地活ホームとの按分
	修繕積立金	200,000	200,000	0	
	利用者負担金充当金	△ 65,000	△ 72,400	7,400	入浴・洗濯・インターネット分
	3 運営費	5,092,000	4,920,285	171,715	
	旅費	940,000	788,820	151,180	
	消耗品費	612,000	896,012	△ 284,012	事務用品・日用品・災害時備蓄費
	印刷製本費	310,000	150,907	159,093	
	修繕費	80,000	130,725	△ 50,725	
	通信運搬費	770,000	691,230	78,770	電話・切手・振込手数料等
賃借料	980,000	988,623	△ 8,623	車両・駐車場・コピー機リース料	
備品等購入費	350,000	578,345	△ 228,345	器具什器費	
保険料	50,000	41,400	8,600	施設賠償保険	
雑費	1,000,000	654,223	345,777	教養娯楽費・研修費・各種会費等	
4 本部繰入金			0		
支出合計		62,300,000	62,062,772	237,228	
III 戻入精算					
A 利用料収入合計の15%				0	
B 人件費戻入精算分				293,019	
戻入合計				293,019	